

総合ビルメンテナンス
や警備事業を展開するテ

AIで非破壊検査

テックサプライ 年内にも米企業と提携



カンチャーラCEO(左)から説明を受ける幡社長

テックサプライ(本社・札幌)は、AIを使った非破壊検査事業に参入する。コンクリートの劣化診断などで高い実績を持つaロボティクス社(本社・米国)と年内にも提携し、同社の技術を使ったサービスを提供する。6日、札幌市内の愛生縮ビルでaロボティクス社が非破壊検査の実演をした。

テックサプライの幡優子社長、aロボティクス社のアカシ・カンチャーラ最高経営責任者(CEO)、両社を仲介したストーンガーデンズアドバイザリー(本社・米国)のニック・アンジェラーミCEOと山川太郎アジア代表らが実演に参加した。aロボティクス社は、米ニューヨークに本社を置くハイテク企業のスタートアップ。国際特許を保有する自社開発のAIを使った非破壊検査技術を武器に米国やNATO加盟国内の軍事施設、民間施設で多くの実績を持つ。エンパイアステートビルやグランドセントラル駅の検査をし、修繕計画や保全計画を策定した。ストーン社は同社のコンサルティング業務を担当。

aロボティクス社の技術はコンクリート構造物や道路の内部、溶接の精度を可視化し、複数のセンサーで異常を感知、情報を分析して出力する。マンションの外壁の劣化部分などを足場を組まずに特定できるため、安全、効率、低コストを同時に実現できる検査技術として期待される。

カンチャーラCEOは日本の市場参入に意欲を示した。山川代表は「北海道とニューヨークは気候が似ている。まず北海道から日本、アジアに広めたい」と述べた。愛生縮ビルは1960年代に建設された。検査

の実演ではカンチャーラCEOが自ら機器を身に付け、屋上防水、壁、天井などの劣化状況を調べた。実演は5日に北農ビルで進め、7日以降に東京都内の米軍横田基地の滑走路でも予定する。幡社長は「高齢化や人材不足の中、少ない費用で効率的にメンテナンスできることに着目した。道内でも多くのビルが老朽化している。実演では想像以上に手応えを感じた」と話している。